

## 呉昌碩早期における文人交流から見る芸術観の考察

A study of Wu Changshuo's artistic view seeing from interacting with literatus in his early period

利根川 千枝子

Chieko Tonegawa

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 博士後期課程

キーワード：呉昌碩, 中国文人, 詩書画篆刻

Key words : Wu Changshuo, Chinese literatus, Poetry, Calligraphy, Painting and Seal carving

### 1. 研究目的

呉昌碩(1844-1927)は詩・書・画・印四絶をもって「中国最後の文人」と称せられている。呉昌碩は早期において多くの文人たちを訪ね見識を深めており、文人として大成するための礎を築いた重要な時期である。呉昌碩は読書人の家に生まれながらも官途から芸術の道に進み、その芸術は印から詩書画へと変遷している。また職業文人の側面を持っている。呉昌碩は刻印の側款、印譜と書画の跋文に制作時の状況、心情などを記している。これらの資料を書法の一分野として芸術的に捉えることはあるがその内容について着目したものは少ない。これらは呉昌碩の文人交流と芸術観を知る上での貴重な資料である。また呉昌碩は早期に『石交集』[1]を綴り自らの師友について記述した短文を載せている。これも当時の呉昌碩の文人交流と金石学・詩法・画法の修得を知ることができる重要な資料である。

本研究では呉昌碩が遺した前述の第一次資料を解読して官途の断念、芸術への移行、職業文人という三つの側面に焦点をあてその起因と葛藤を早期の文人交流から明らかにして呉昌碩の芸術観を考察する。

### 2. 研究実施内容

#### (1) 呉昌碩の文人への道程

呉昌碩は浙江省安吉県彰呉村の一読書人の家に生まれた。当時の読書人は科挙に応じて官職に就くことが宿命づけられていた。呉昌碩も県の学官(潘喜陶)の勧めで受験をして秀才となったが、官職とは性が合わず、篆刻、書法、芸術を極めるため、師友を訪ね学識を深めた[2]。この学問研鑽により文人としての呉昌碩像が形成された。

#### (2) 呉昌碩早期の文人交流

呉昌碩が遺した印文と側款、跋文及び呉昌碩が著した『石交集』を主資料とし各文人との交流を取り上げる。

##### 1) 王璜(南京の人、蘇州に流寓)

度量が広く気負いのある性質であり申韓の學(法家思想)を習った。金道堅の友人であった。呉昌碩二子の家庭教師を誠実に務めたが八ヶ月後に病死した。妻子のいない王璜を呉昌碩が弔った。

##### 2) 顧曾壽(蘇州の人)

世俗に付和しない性質で顧茶邨を通して知りあう。詩に堪能でとりわけ画に工みであった。谷間での散策を好み気功術に優れた好奇心な士であった。

##### 3) 潘鍾瑞(蘇州の人)

落ち着いた人で学問を好み、詩をよく作った。旅行を楽しんだ。高貴な家柄で金石学を考訂した。呉昌碩の為に題跋を書き呉昌碩は刻印を成した。

##### 4) 施浴升(安吉の人、挙人)

物静かな人で読書を怠らず、詩を作るのが得意であった。古文を韓愈に学んだ。西湖の謁経精舎に学び呉昌碩に詩法を授け刻印に深意を述べた。

##### 5) 張行孚(安吉の人、挙人)

学問を積んだ人で算術に精通し、古文学派経学に励み説文解字に詳しく著書がある。呉昌碩は鮭尹(塩官)として揚州にいる彼を訪ね古今を談じた。

##### 6) 胡鏗(浙江桐郷の人)

優れた精神の人で篆書に精通し、刻印を好み竹刻は特に上手であった。湖州で呉昌碩と交わりを約し刻印を賞賛した。呉昌碩も彼の芸事を称えた。

##### 7) 施補華(浙江烏程の人、挙人)

詩に優れ漢唐の趣が融合され精練していた。左宗棠の幕下で西域に従軍した。役所で校書をして

いた時に詠経精舎で学んでいた呉昌碩と知り合う。

#### 8) 譚廷獻 (杭州の人, 挙人)

詩は施補華と同様に優れ著書がある。上海で公務をしていた呉昌碩と知り合い、詩を添削及び賞賛し蕪園図の題跋を書いた。安徽で官職についた。

#### 9) 徐維城 (江蘇鎮江の人, 挙人)

詩に工みで著に『天韻堂詩存』がある。上海で友人呉鞠譚を介して知り合い呉昌碩の詩に感嘆する。彼の他界後、呉昌碩は詩を読み刻印をして報いた。

#### 10) 潘祖蔭 (蘇州の人, 進士)

高德な人で名望な家柄の名臣であり、経学に精通した。同族の潘鍾瑞を通して刻印を依頼し出来栄えを称えた。古銅器拓本を贈られたので、呉昌碩はお会いし篆書に古趣があるとお褒めを受けた。

#### 11) 胡公壽 (上海松江の人)

才知に富み書画を得意とし気力に溢れていた。上海で知り合った。呉昌碩の刻印と行書・篆書を好んだ。倉石図を描きそれに題跋を添えた。

#### 12) 金爛 (蘇州の人)

画に工みで古雅で力強い。特に呉昌碩と親しくした。医術に優れ呉昌碩の背中の腫瘍を治療し呉昌碩長子の病氣回復に手助けをした。

13) 呉昌碩が江蘇省南部を流寓して出会った画士 14 名を記す。彼らと交流しその印を刻した。

- ・張熊(嘉興の人) 山水画に長け奥深い境地あり。
- ・任薰(杭州の人) 画は陳洪綬を宗とし力強い。
- ・吳滔(桐郷の人) 画は渾厚さで勝り古意に満つ。
- ・蒲華(嘉興の人) 草書画竹に優れ傳瀛に学んだ。
- ・顧澐(蘇州の人) 山水画は四王が淵源で神韻有。
- ・陸恢(蘇州の人) 花卉画に工みで活力が有った。
- ・楊南湖(嘉興の人) 山水画で有名であった。
- ・呉穀祥(嘉興の人) 山水画で名声を得た。
- ・李鄂(蘇州の人) 山水画に優れ娟やかで趣あり。
- ・費以羣(湖州の人) 士女画は麗しく俗ではない。
- ・胡錫珪(蘇州の人) 改琦に傾倒し士女画に工む。
- ・李嘉福(桐郷の人) 宋元の画法。工みで細やか。
- ・林福昌(蘇州の人) 画は絢爛。呉雲の元に寓居。
- ・卞祖海(湖州の人) 画は賞賛された。菱湖に住む。

#### (3) 横断的に見た呉昌碩早期の文人交流

呉昌碩早期の文人交流を横断的に見ると次のように分けることができる。

##### 1) 友好的交流

家族的な交際があり精神的な支えとなった。王璜, 金爛

##### 2) 詩法による交流

良い詩を鑑賞したり、詩作を褒めていただき或いは添削を受けて文学的向上を得ることができた。顧曾壽, 潘鍾瑞, 施浴升, 施補華, 譚廷獻, 徐維城

##### 3) 刻印による交流

刻印を褒めていただき励みになり、恩恵に報いるために刻印を差し上げて交友のツールとなった。潘鍾瑞, 胡饒, 潘祖蔭, 胡公壽

##### 4) 金石学・古文学による交流

古銅器拓本の惠贈を受けたり、博学な師友と古今を談じて学術的見解を深めることができた。潘鍾瑞, 張行孚, 潘祖蔭

##### 5) 書画による交流

多くの画士との交流から鑑賞を高め技法修得のために研鑽を行うことができた。

顧曾壽, 胡公壽, 金爛, 張熊, 任薰, 吳滔, 蒲華, 顧澐, 陸恢, 楊南湖, 呉穀祥, 李鄂, 費以羣, 胡錫珪, 李嘉福, 林福昌, 卞祖海

##### 6) 地縁による交流

文人交流は浙江、江蘇などの呉昌碩の故郷、流寓及び生活の地で行われ恵まれていた。

#### 3. 今後の課題

文人交流、学術研鑽の状況を多角的に分析し金石学に基づく呉昌碩の高めた芸術観を考察する。

#### 4. 引用文献

[1]沙匡世校注『呉昌碩石交集校補』1992.3 上海書画出版社

[2]呉東邁『呉昌碩』1963.12 上海人民美術出版社の邦訳である足立豊訳『呉昌碩 [人と芸術]』1974.7.20 二玄社による。

#### 発表論文等

##### ①雑誌論文

[1] 松村茂樹, 利根川千枝子, 他 10 名「長尾山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて—シンポジウム記録『人間生活文化研究』投稿予定。

##### ②学会発表

[1] 松村茂樹, 利根川千枝子, 他 10 名「長尾山とその交友」展の開催—大学博物館の活性化に向けて—シンポジウム」2025.2.20 大妻女子大学(東京都千代田区)

#### 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和6年度大学院生研究助成(A)(DA2403)「呉昌碩早期における文人交流から見る芸術観の考察」を受けたものです。